

## 中学校国語科における情報活用能力育成のカリキュラム開発

甲斐伊織(学習院中等科 教諭)

本研究は、中学校国語科における情報活用能力を段階的に育成する学習過程の提示を目的とする。本研究では、現行の学習指導要領で示された三つの「資質・能力」に基づき、情報活用能力を以下三点の要素から構成されるものとして捉えた。

- i [知識及び技能] 課題に即して適切に情報機器を活用しながら情報を収集する力
- ii [思考力・判断力・表現力等] 複数の情報を選択・比較・編集し、効果的に表現する力
- iii [学びに向かう力、人間性等] 他の学習者と情報を共有し、協力して課題を解決する力

情報活用能力の育成に関する研究は、個別の授業実践を構想・実践・検討する「点」の段階から、その集合体であるカリキュラムの検討・開発を行う「線」の段階へと移行していかなければならない。本研究では、上記の諸要素の学習経験が関連し合いながら段階的に蓄積されていく過程を実際の授業実践に即して示し、今日の国語教室において活用可能なカリキュラムを開発することが本研究の目的である。

2年間の助成期間のうち、2021年度を大村はま国語教室の実践研究とカリキュラム開発の期間(下記①～③)とし、2022年度(下記④・⑤)を前年度の成果に基づく具体的な実践・検証の期間とした。

**①【大村国語教室におけるカリキュラムの復元】** 鳴門教育大学附属図書館に所蔵されている大村はま国語教室の学習者が作成した学習記録により、1969～79年度の学習経験の蓄積を復元し、参照可能な形でまとめた。本資料は、情報活用能力を含め、今後の大村国語教室の研究に資するものである。

**②【読書会単元の比較・考察】** ①で復元した資料によって、1969～79年度の期間には読書会の単元が6度、対象学年や時期を変えながら実践されていることが明らかになった。単元の内容は共通しつつも、対象となる学習者の学習経験の蓄積状況によって、その指導は変化している。指導の相違点は学習経験の蓄積と、学習者の発達段階とを関連づけて変更していったものと考えられる。これらの考察を通して、大村による情報育成能力の段階を示した。

**③【情報活用能力を育成する各学年の段階の提示】** ②の成果に基づいて情報活用能力(i・ii・iii)のそれぞれの指導の展開を具体的な授業実践の形で考案した。ここでは、指導の展開に加えて、大村国語教室に対する考察から得た、カリキュラムの進捗に伴う指導の重点の変化についても示している。ここで示した各段階と指導の重点の変化は、④・⑤における具体的な実践の基盤となるものである。

**④【開発したカリキュラムを具体化する授業の実践】** ③で構想した単元を、筆者が所属する学習院中等科における実践によって具体化した。各実践の様子は、適宜録音・録画を行い、単元の成果と課題について検証した。検証の結果に基づき、既に計画している次の単元の内容や指導方法に修正を加えていった。2022年度は中学校第1学年の授業担当であったため、③で示した情報活用能力(i・ii・iii)のそれぞれの第I段階の習得を目標とした。実践の過程は、単元ごとの概要と情報活用能力の育成に関わる学習活動の展開を一覧にして提示した。この成果は③のうち第1学年のカリキュラムを具体化し検証したものとして位置づけられる。

**⑤【学習集団の拡張を試みる授業の展開】** 情報機器の進化に伴って学習者集団を他クラス・他学年・他校と拡張することも可能である。コロナ禍によって、オンラインでの交流は急速に拡大した。その背景から、情報機器やその技術に基づく学習集団の拡張と活用は、今後の情報活用能力を育成する目的の一つとなっていくと考えられる。本研究では、学習集団の拡張を試みる授業を、年間を通して継続して行い、その学習経験の蓄積の成果と課題を検証した。2022年度を通して勤務校の学習院中等科のクラス間交流を1学期に1度、千葉大学教育学部附属中学校との学校間交流を2・3学期にそれぞれ1度ずつ行った。その成果として次の知見が得られた。

- ICTを活用した他学級/学校との交流は、教室の中に普段接していない本物の「他者」を表出させる上で有効である。
- 他校との実践において、1度の単元で協力して学習を成立させていくことは困難であり、学習集団の形成を情報活用能力iiiの最初の段階として設定する必要がある。学習集団として成立した後に、協力した課題解決は可能になる。
- 他校間交流を通して、お互いの教室の文化や受けている指導を相対化できる点も、継続した実践の意義である。

急速に情報化が進展する社会の中で、情報活用能力の育成は学校教育の喫緊の課題である。本研究の成果は、中学校国語科の枠組みにおいて情報活用能力の育成を系統的に行い、その指針や段階を具体的な実践に基づいて示したことである。